



やまゆり

学校だより

令和6年1月16日
75号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級づくり」 「豊かな心の育成」

「学校体制で積極的な相談」をしています

昨日の1月15日(月)に、本校で毎月2回行っている生徒と教職員の相談をしました。思春期の生徒は様々な悩みを持っています。その悩みや困っていることを教職員を選択して、相談できる組織体制をとっています。生徒自身が悩みを言語化し、自ら他者に相談して自分に迫る困難や危機を回避できる力を育成しようとしています。

一人一人の生徒の各自の目標を実現していくためにも、悩みや困っていることを信用できる人に相談しながら、改善する経験を持つことは、高校や社会でも重要と考えます。

具体的な内容は、相談した生徒のために守ることを原則としていますが、主な相談として紹介したいと思います。ご家庭でも、お子さんとの会話を増やしたり、相談をお願いします。

主な相談内容

- 受験に対する不安や緊張
- 家庭学習の取り組み方
- 苦手教科の学習方法
- 将来の職業に関する悩み
- 行事への不安
- 友人関係をより良くするための方法等が主な相談内容でした。

相談される教職員として努力すべき事項

- 1 不安や悩み、相談したいことは誰にでもあるが、簡単に悩みは話せないことを理解する
- 2 相談される人間関係を構築する
- 3 しっかり聞き、共感する
- 4 適切な助言を心掛ける

※ 教職員も専門性を向上させる・生徒と一緒に考える・他の教職員や他機関と連携する

- 5 相談を続ける

昨日の相談の様子を一部紹介します

※「悩みを聞いてもらい、気持ちが楽になった」等の声を聞いています。



教職員の多忙化、働き方改革は推進しなければなりません。しかし、生徒の悩みや困っていることに対して、優先順位の1位で対応するようにしています。いじめや不登校を予防し、生徒一人一人が持っている目標を実現するためには、「早期の悩み相談」が重要と考えています。

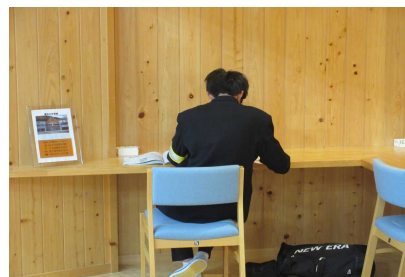
本校の相談体制・早期発見・適切な対応のための組織体制

- 毎日のフォーサイト(生徒が毎日書くノート)での相談体制
- 月二回の全生徒対象の相談
- 信頼性と妥当性の高い標準化検査WEBQUを学期1回、年3回実施
- 生活調査アンケート・いじめ調査アンケート
- 相談することの必要性や重要性の指導
- 朝会・夕礼、代表者会、職員会議、校内研究等で、生徒の状況について報告・確認

学校教育重点目標 「確かな学力の育成」

「主体的に学ぶ生徒を育成」しています

本校では、「令和のやまなし教育活動モデル事業」の協力校として、「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」研究をしています。昨日の放課後も、バスを待つ時間にも生徒は、自ら図書室で勉強をしていました。結果も重要ですが、結果以上に重要なのは「自分なりの目標を実現しようとして、努力している」生徒の姿です。



学力に一番影響がある「学習への4つの意欲」

- 1 まだ知らないことや、さらに詳しいことを知りたい
- 2 もっと出来るようになりたい。もっと成長したい。
- 3 人のためになりたい。社会に貢献したい。
- 4 自分の長所を生かして、自分らしく生きたい。

5 生徒一人一人が自己実現を達成

- 4 承認や尊敬欲求(尊敬される・自己肯定感の充足) ※本校の研究内容
- 3 所属集団からの承認・愛情(学級で認められる)
- 2 心理的安全(学級・学校での居場所・やる気)
- 1 生理的欲求(衣・食・住・愛)等が満たされる

全国いじめ問題子供サミットで発表する「ポスター」を製作している生徒会役員



←筑波大学 櫻井茂男先生の理論

生徒指導提言に沿った指導

今回は「生徒指導提言に沿った指導」について実践内容を提案する。

体罰や不適切指導は、生徒指導の意識である「児童生徒が社会の中で自分らしく生きる存在へと、自発的・主体的に成長・発達する過程を支える教育」を阻害する。本校では、「安定と活性化を両立した学級」を基盤に「発達支持・課題予防・困難課題対応」の3類型で「自己指導能力」を育成するために、以下の指導を組織で推進している。

1. 主体的な成長や発達の機会を奪う「押しつけ・決めつけ・急がす・責める・脅す・大声」等の指導をしない
2. 起床・朝食・登校・下校・家庭学習の開始・就寝等の生活リズムを構築する
3. 荒れた集団は、指導の基盤となる心理的安全性を阻害するので、規律と人間関係の充実した学級集団づくりを教職員組織で構築する
4. 本人の可能性の伸長や自己選択のために、不足や課題を認め強化し、成功体験の根拠を生かす

「自己指導能力」育成へ組織で長所認め、伸ばそう

5. 積極的生徒指導・開発的生徒指導として「挨拶・意気の伝え方・依頼・断る・助けを求める・折り合いをつける・関係の修復・悩みの対処法」等を指導し、社会的な資質・能力を育成する
 6. 悩みや困っていることを言語化し、自ら悩みに相談して自分に迫る困難や危機を回避できる力を育成する
 7. 児童・生徒を支えるために「感情に寄り添い共感すること」を重視する
 8. 誰の問題であるかを明確にし、「改善する意思や判断を生かし認め、支えて協働」する
 9. 生徒自身が「考え方と行動の仕方の問題点に気づき」、自己選択・決定により自己指導能力を育成する
 10. 悩みや怒りは不適切行動につながるので「事案の直接原因と背後にある原因を突き止めて指導」する
- 児童・生徒の心身の健康と幸福の実現を目指し、これらの指導を基盤に教職員の主体性と同僚性、校長を中心とした組織によるPDCAサイクル、家庭や地域、各関係機関との連携で「受けて良かったと思える指導」を推進する。